

令和5年度 第1回三木市文化財保護審議会次第

日 時：令和5年10月27日（金）

午後1時30分～4時

場 所：みき歴史資料館 3階 講座室

1 開 会

2 報告事項

- (1) 令和5年度文化財保護事業計画について【資料1】
- (2) 国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁の発掘調査等について【資料2】

3 協議事項

- (1) 市指定文化財の指定計画について【資料3】（非公開）
- (2) 市指定史跡愛宕山古墳（下石野5号墳）の発掘調査計画について【資料4】
- (3) 「六社神社屋台 旧水引幕・高欄掛け・布団締め」の調査報告と今後の方針について【資料5】

4 その他

5 閉 会

三木市文化財保護審議会 委員名簿

	役職	氏 名	分 野	備考
1	会長	宮田 逸民	城郭史	再任
2	副会長	依藤 保	日本法制史	再任（公募）
3	委員	藤田 均	郷土史	再任
4	委員	伊賀なほゑ	中近世都市史	再任
5	委員	千種 浩	文化財保存	新任
6	委員	中久保 辰夫	考古学	新任
7	委員	山田 貴生	民俗	再任（公募）

※ 任 期 令和４年６月１日から令和６年５月３１日

令和 5 年度文化財保護事業計画について

1 事業計画

事業名	内 容	実施日	実 施 場 所
文化財保護審議会	〔第 1 回目〕 ・ 令和 5 年度文化財保護事業計画について他 〔第 2 回目〕 ・ 令和 6 年度文化財保護事業実施計画について他	10 月 27 日 3 月 頃	みき歴史資料館
歴史・美術の杜推進事業関係 (1) 啓発関係	歴史ウォーク① 近世絵図で歩く三木城跡 参加者 84 人	4 月 30 日	三木城跡
	歴史ウォーク② ホースランドパーク周辺付城跡コース 参加者 87 人	5 月 28 日	明石道峯構付城跡他
	歴史ウォーク③ 別所ゆめ街道コース 参加者 人	10 月 22 日	三木鉄道ふれあい館他
	歴史ウォーク④ 秀吉本陣跡コース	11 月 25 日	秀吉本陣跡他
	歴史ウォーク⑤ 愛宕山古墳・正法寺古墳コース	3 月 10 日	愛宕山古墳他
	三木城本丸跡発掘調査体験イベント	11 月 18 日	三木城本丸跡
(2) みき歴史資料館	企画展① 細川町の祭り屋台展 来館者 2,994 人	4 月 22 日～ 6 月 25 日 (56 日間)	みき歴史資料館
	企画展② 播磨の鉄道風景～過ぎ去った時間を再現する～ 来館者 3,167 人	7 月 15 日～ 9 月 24 日 (62 日間)	みき歴史資料館

	企画展③ 地域の史料たち 7～三木の歴史～	10月14日～ 12月24日	みき歴史資料館
	企画展④ 三木の染形紙	1月27日～ 3月17日	みき歴史資料館
	企画展特別講演会、歴史講座、体験教室	随時	みき歴史資料館
	歴史資料館協議会	10月19日 3月頃	みき歴史資料館
(3) 三木城跡及び付城跡・土塁の整備	史跡危険木等伐採	随時	三木城跡及び付城跡・土塁
	発掘調査検討委員会	8月16日 11月22日	みき歴史資料館
	旧上の丸庁舎跡基礎撤去工事	10月17日～ 11月20日	三木城二の丸跡
	三木城本丸跡確認調査	11月14日～ 12月15日	三木城本丸跡
	堀光美術館別館・釜城館等撤去工事	12月～3月	三木城二の丸跡
埋蔵文化財発掘調査等	①包蔵地照会件数 232件 ②届出件数 93条 5件 94条 1件 ③指導事項 慎重工事 3件 工事立会 1件 本発掘調査 0件 未定 2件 ※9月末時点	4月～3月	市内
	開発等にかかる緊急調査 ①確認調査 0件 ②工事立会 0件 ※9月末時点	随時	市内
	学術調査 1件 愛宕山古墳（市指定史跡） ※調査主体 大阪大学	2月29日～3月20日	別所町下石野

埋蔵文化財維持・管理	遺跡管理除草作業 委託業者：（公社）三木市シルバー人材センター 直営：市職員	随時	三木城跡及び付城跡・土塁、正法寺古墳、与呂木青葉台古墳、愛宕山古墳、有安2号墳他
展示公開	別所ふるさと交流館埋蔵文化財展示室において、別所町の遺跡等を紹介	4月～3月	別所町下石野
文化財実態調査	『三木の石造品Ⅳ－志染地区編－』作成のための調査等を実施する。 調査ボランティア 4人	6月～3月	市内

2 市指定文化財の指定

名称	種別	所有者	指定年月日
兵庫県立三木山森林公園のコバノミツバツツジ群落	天然記念物	兵庫県	令和5年4月21日

3 資料貸出

依頼者	資料名	目的	貸出日（期間）
株式会社リゲル社	画像資料 平井山ノ上付城跡 測量図他 計4点	『国史跡 戦国日本の城』に掲載するため	4月12日
個人	高木18号墳 ガラス管玉他 計31点	日本列島におけるガラス玉の流通についての調査・研究のため	4月26日～ 7月26日
株式会社グレイル	画像資料 朝日ヶ丘土塁写真 ほか 計3点	TJMOOK『今こそ行きたい信長、秀吉、家康の城』（宝島社）に掲載するため	5月2日
株式会社朝日新聞出版	画像資料 三木合戦軍図写真	朝日新書『天下人の攻城戦』（朝日新聞出版）の帯の装丁デザインとして使用するため	6月26日
株式会社NEXTEP	画像資料 三木合戦軍図写真	BSフジ「この歴史、おいくら？」に使用するため	7月7日
株式会社KG情報	画像資料 旧小河氏庭園写真	『SETOUCHI MINKA』に掲載するため	7月19日
株式会社時事日本語社	画像資料 三木合戦軍図写真	『日本の辞世（仮題）』に掲載するため	8月10日

※9月末時点

4 講演等派遣事業

依頼元	内 容	講師	実施日	実施場所	参加者 (予定)
善友会	「三木城跡発掘調査から見た三木の歴史」	金松誠	4月27日	市民活動センター	90人
大阪府高齢者大学校	武家政権700年・合戦史科「探訪・三木合戦の地を歩く」	金松誠	5月26日	三木城跡他	39人
第39回全国城郭研究者セミナー実行委員会・中世城郭研究会	第39回全国城郭研究者セミナー「三木城攻めの付城における階段状削平地群について」	金松誠	8月6日	大正大学	240人
志染町公民館	いきいき（高齢者）教室&ゆうゆう（女性）セミナー「遺跡から見た三木合戦」	金松誠	8月17日	志染町公民館	28人
竹中半兵衛重治公顕彰会	平井山ノ上付城跡の案内	金松誠	8月27日	平井山ノ上付城跡	43人
三木市老人クラブ連合会教養部	まちづくり出前トーク「遺跡から見た三木合戦」	金松誠	9月26日	まなびの郷みずほ	81人
自由が丘公民館	高齢者教室 館外学習「歴史ウォーク 近世絵図で歩く三木城跡コース」	金松誠	10月17日	三木城跡他	14人
青山公民館	青山いきいきセミナー「戦国武将 松永久秀の実像」	金松誠	12月7日	青山公民館	20人
兵庫県学校厚生会東播支部	2023年度歴史教室「東播磨と三木合戦」	金松誠	12月13日	兵庫県学校厚生会東播活動センター	25人
三木市高齢者福祉センター	まちづくり出前トーク「遺跡から見た	金松誠	12月19日	高齢者福祉センタ	30人

	三木合戦」			一	
--	-------	--	--	---	--

5 図書の発行

書籍の名称	編集・発行	発行部数	発行日
三木市文化研究資料第38集 『明石道峯構付城跡発掘調査報告書』	三木市教育委員会	300 部	3 月 31 日

6 文化関係団体の育成及び活動支援

事業名	内 容	実施日	実施場所
地域文化財総合 活用推進事業	伝統文化の保存団体が地域の伝統文化を継承するため実施する伝承者等の養成、用具等の整備、映像記録の作成に対し、文化庁の補助事業によって一定の限度額の範囲で事業支援する。 1 伝統文化継承基盤整備事業 祭りの屋台・獅子舞等地域の文化遺産継承のために用いる用具の新調・修理事業 新調・修理した用具を使った体験事業や一般公開を実施する。 ・下町屋台保存会 支援内容 高欄掛け2枚、水引幕（龍目玉・ロープ取り替え）修理、後継者養成 ・栄町公民会 支援内容 高欄（跳ね高欄）・高欄金具メッキ修理 ・大手町屋台保存会 支援内容 鳴り太鼓修理 ・御坂神社御弓神事保存会 支援内容 磔（ゆがけ）新調 ・東條町公民会 支援内容 長胴太鼓修理（皮の張替）	4月～3月	市内

国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁の発掘調査等について

- 1 三木城本丸跡の発掘調査について
別紙のとおり
- 2 旧上の丸庁舎跡基礎撤去工事及び堀光美術館別館等解体撤去工事について
別紙のとおり

三木城本丸跡の発掘調査について

国指定史跡「三木城跡及び付城跡・土塁」のうち、中核をなす三木城本丸跡・二の丸跡について、遺構の確認や整備を行うに当たり、令和4年度から6年度にかけて発掘調査、令和7年度に調査報告書の作成を予定している。本年度は、三木城本丸跡の発掘調査を実施する。

1 調査事業地

三木市上の丸町5-45（旧上の丸保育所跡）

2 調査予定期間

令和5年11月14日～12月15日

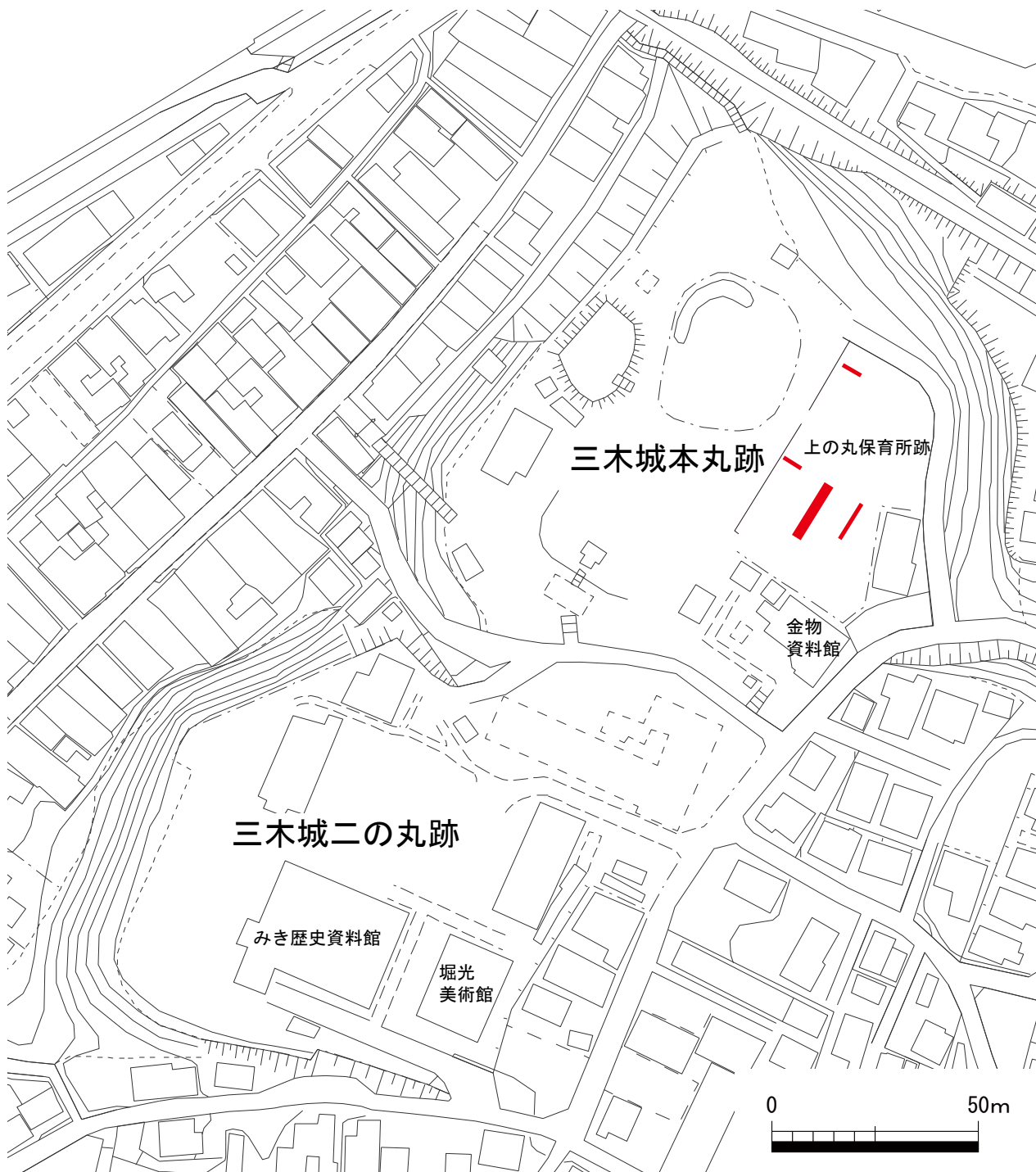
3 調査予定面積

57.5㎡程度

4 発掘作業内容

調査トレンチ計4か所について、表土掘削、遺物包含層掘削、遺構面検出、遺構掘削、埋め戻し作業等を行う。

凡 例	
	調査区



三木城本丸跡 調査区配置図（予定）

三木城本丸跡確認調査



上の丸保育所跡全景
(南西から)



上の丸保育所跡北西端
(東から)



上の丸保育所跡南半部
(西から)

旧上の丸庁舎跡基礎撤去工事及び堀光美術館別館等解体撤去工事 について

1 現状変更に係る地域の地番

兵庫県三木市上の丸町 8 4 0 番

2 所有者の氏名又は名称及び住所

三木市、兵庫県三木市上の丸町 1 0 番 3 0 号

3 史跡の現状変更を必要とする理由

今回、いずれも三木城二の丸跡に位置する、建物基礎の撤去及び建物等の解体撤去に伴うものである。

内訳は、基礎撤去のみを行うものは、旧上の丸庁舎跡である。解体撤去対象施設は、①プレハブ倉庫、②便所、③釜城館、④堀光美術館別館（美術館倉庫）、⑤木造倉庫、⑥ＣＢ倉庫、⑦スレート倉庫、⑧木造倉庫、⑨自転車置き場である。

旧上の丸庁舎跡は、昭和 1 7 年（1 9 4 2）竣工された旧県立三木高等女学校の特別校舎として建築され、昭和 2 7 年・3 1 年に増築されたものであったが、老朽化に伴い、令和元年度に解体撤去しており、現在は基礎を残した状況となっている。

①～⑨は、主に県立三木高等女学校（県立三木高等学校・昭和 4 1 年移転）や県立小野工業高等学校三木分校（昭和 5 5 年閉校）の時期に建てられた施設であるが、いずれの施設も老朽化により、史跡の景観を損ねている。

今回、基礎撤去や解体工事を実施することにより、史跡にふさわしい景観を確保するとともに、史跡整備までの暫定的な広場空間として史跡等来訪者に開放する。

4 現状変更等の内容及び実施の方法

(1) 内容

ア 基礎撤去

- ・ 旧上の丸庁舎跡の基礎撤去を行う。
（基礎構造は深さ 30～70 cm、断面構造は逆 T 字状を呈す）
- ・ 旧化学教室の土間（盛土）を撤去する。
- ・ トイレの基礎や階段・スロープ等を撤去する。

イ 解体工事

- ・ プレハブ倉庫、便所、釜城館、堀光美術館別館、木造倉庫、C B 倉庫、スレート倉庫、木造倉庫、自転車置き場を解体及び基礎撤去する。

(2) 実施の方法

実施に当たっては、重機を用いて行う。解体材等は、トラックで搬出を行う。基礎撤去に当たっては、建設時に掘削した箇所を再度掘削し、新たな掘削をしないように実施する。

5 現状変更等により生ずる物件の滅失若しくはき損又は景観の変化その他
現状変更等が史跡に及ぼす影響に関する事項

基礎撤去に当たっては、埋蔵文化財担当職員が立会の上、建設時に掘削した箇所を再度掘削することとする。特に解体工事を行う施設の基礎構造は詳細が不明であることから、慎重に見極めた上で、史跡への影響がないように実施する。

6 現状変更等の着手及び終了の予定時期

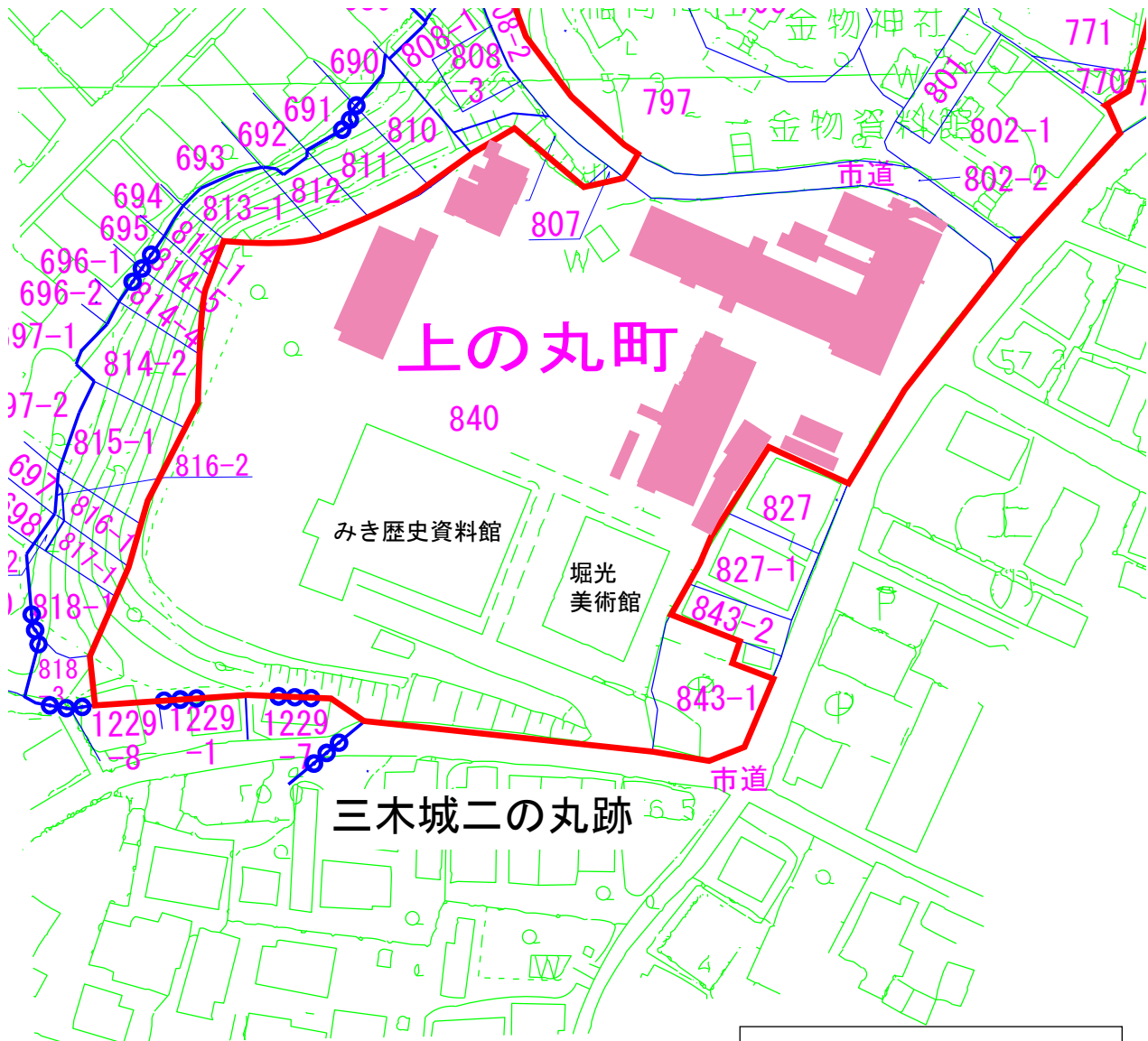
着手時期：令和5年10月17日

終了時期：令和6年3月31日

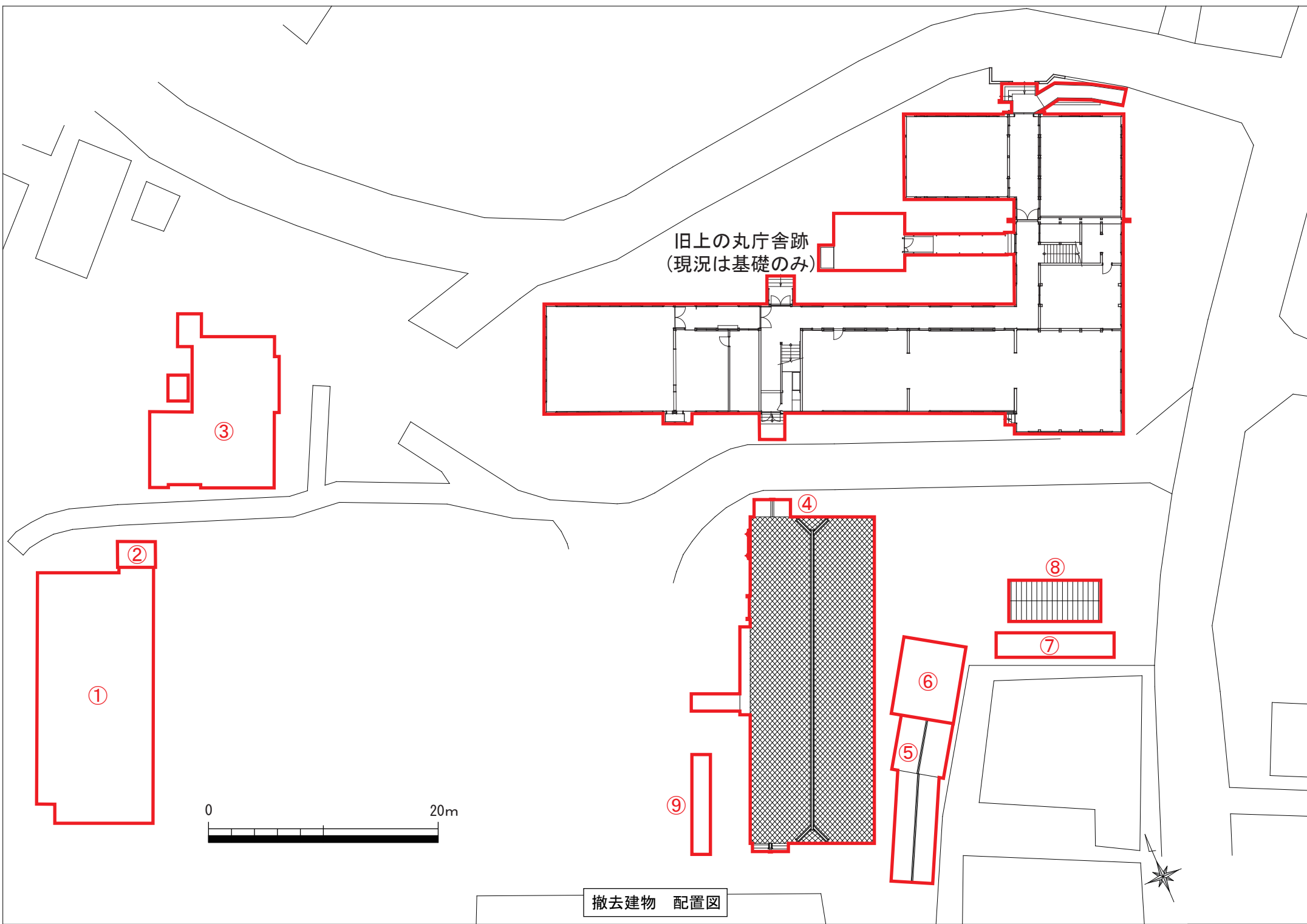
工事内容	現状変更の内容		
	撤去施設	現状・構造	建築面積等
1 基礎撤去	旧上の丸庁舎跡 (昭和 17 〈1942〉、 27、31 年)	・コンクリート基礎 ・旧化学教室の土間(盛土) ・トイレの基礎、渡り廊下、 階段、スロープ	・ 710 m² 建物基礎深さ 約 30～70 cm ・ 74 m²
2 解体工事	①プレハブ倉庫 (昭和 44 年頃)	軽量鉄骨造スレート葺 平屋	199.64 m ²
	②便所 (昭和 44 年頃)	C B 造 平屋	6.45 m ²
	③釜城館 (昭和 31 年)	木造瓦葺 平屋	114.58 m ²
	④堀光美術館別館 (美術館倉庫) (昭和 7 年)	木造モルタル石綿セメント 瓦葺 平屋	253.16 m ²
	⑤木造倉庫 (昭和 12 年)	木造トタン葺 平屋	44.42 m ²
	⑥C B 倉庫 (昭和 48 年頃)	C B 造陸屋根 平屋	25.58 m ²
	⑦スレート倉庫 (昭和 50 年頃)	軽量鉄骨造スレート葺 平屋	22.1 m ²
	⑧木造倉庫 (昭和 26 年)	木造瓦棒葺 平屋	21.75 m ²
	⑨自転車置き場 (昭和 57 年)	軽量鉄骨造トタン葺 平屋	17.28 m ²

指定範囲：赤
事業範囲：ピンク

指定等の対象地域の範囲を示す地形図
・三木城本丸跡
・三木城二の丸跡



凡 例	
	大字, 町, 丁目界
	小字界
	筆 界
	里 道



旧上の丸庁舎跡基礎撤去工事



旧上の丸庁舎跡(東から)



旧上の丸庁舎跡(南東から)



旧上の丸庁舎跡(西から)



旧上の丸庁舎跡 トイレ基礎
(北東から)



旧上の丸庁舎跡 北辺
(西から)



旧上の丸庁舎跡 北辺東側
スロープ(東から)

①プレハブ倉庫



東面（南東から）



西面（南西から）



内部

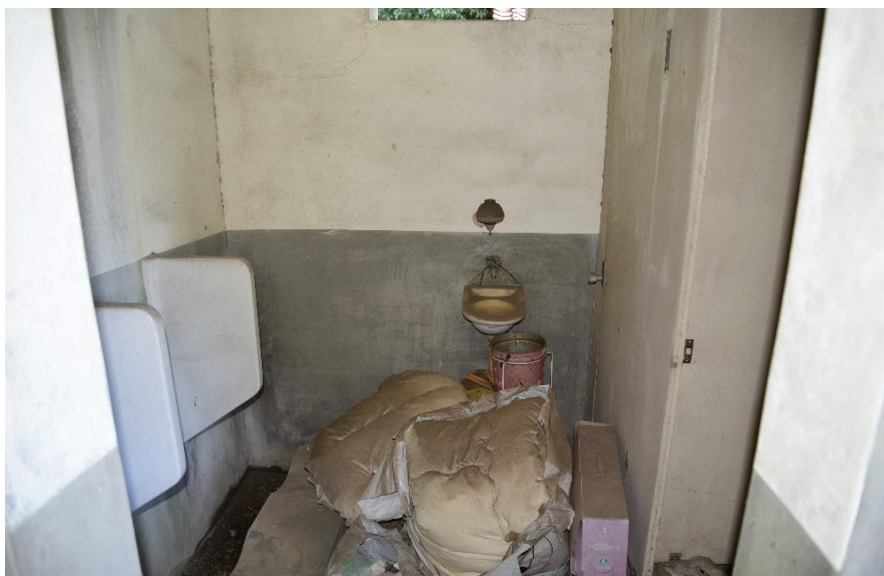
②便所



北面・西面（北西から）



南面・東面（南東から）



内部（南から）

③釜城館



東面・南面（南東から）



南面・西面（南西から）



西面（南西から）

④堀光美術館別館



南面・西面（南西から）



東面・北面（東から）



北面・西面（北西から）

⑤木造倉庫



西面（北から）



西面（南西から）



内部

⑥ C B 倉庫



北面・西面（北から）

⑦スレート倉庫



北面・西面（北西から）

⑧木造倉庫



北面（北から）



北面・西面（北西から）



内部（西から）

⑨自転車置き場



全景（北西から）

市指定史跡愛宕山古墳（下石野 5 号墳）の発掘調査について

- 1 発掘調査計画について
別紙のとおり

2023年 10月 3日

2023年度 三木市愛宕山古墳（下石野5号墳）の 発掘調査計画について

大阪大学人文学研究科考古学研究室

1 三木市愛宕山古墳（下石野5号墳）調査の全体計画

現在、大阪大学大学院人文学研究科福永伸哉を研究代表者として、2022年度～2024年度科学研究費補助金「初期ヤマト政権の地域統合原理の解明と比較考古学的手法によるその人類史的評価」の採択を受けている。この研究では、具体的な検討対象として三木市別所町（図1）に所在する愛宕山古墳（下石野5号墳、以下愛宕山古墳と表記）の学術発掘調査を企画しており、大阪大学人文学研究科考古学研究室による、2022年度（2023年2・3月）、2023年度（2024年2・3月）、2024年度（2025年2・3月）の計3ヶ年の現地調査を計画した。現在大阪大学考古学研究室は市史編纂事業に関連して三木市史編さん室および三木市教育委員会との共同研究を継続的に実施しており、今回の調査においても市と緊密に連携して計画を遂行する予定である。

ただし今後、社会状況の変化など諸般の理由により、調査計画の内容を変更する可能性がある。

2 2023年度の発掘調査計画

（1）調査の概要

大阪大学考古学研究室による学術調査を2024年2月29日から3月中旬に実施する。期間は約3週間を予定している。大阪大学考古学研究室がおこなう愛宕山古墳の調査としては2回目のもので、他機関等を含めれば大阪市立大学による測量調査（平成14年度）、三木市教育委員会による周縁部の確認調査（平成23年度）に続くものである（下記（3）参照）。

平成14年度の測量調査の結果、愛宕山古墳は墳丘規模90m前後、前方部があまり開かない形状であることが指摘された。ただしこのうち墳丘長については、特に前方部前面において大きく削平を受けているため、測量調査のみでは詳細な数値を確定することが難しい状況である。また外表施設については、60年ほど前の時点では葺石や形象埴輪、円筒埴輪が観察できたとの情報があるが、現在の地表面ではそれらの痕跡を確認することはできない。平成23年度調査時にも、後円部西側のトレンチにおいて墳丘裾部分にあたる盛土が確認されたが、時期比定 material になりうるような十分な量の埴輪資料は得られていなかった。加古川流域の前期・中期古墳は近年資料の蓄積が著しく、その中でも最大級の規模をもつ愛宕山古墳の実態を解明することは喫緊の課題であるといえ、現在取り組んでいる『三木市史』の執筆においても、今回計画の調査は大きな役割を果たすと考えられる。

こうした状況を受け2022年度(2023年2月27日～3月19日)に、大阪大学として1回目の発掘調査(第1次調査)を実施し、墳丘の構造や用いられた埴輪類に関する情報を得ることができた。具体的には、墳丘最下段の大部分が地山を削り出して整形していること、主軸線上の後円部裾付近において陸橋部の可能性がある遺構を確認したほか、墳丘に用いられていた埴輪類の特徴から、これまで想定されていたよりも古い築造時期である可能性が濃厚となるなどの成果を得ることができた。一方で陸橋部状遺構の平面的範囲のほか、墳丘の高さに対してテラス面の存在が明瞭でないなど墳丘の段築構造については不明な点が残されていた。また埴輪片も量的に多量とは言えず、かつすべて転落した状況での出土であり、埴輪の樹立様相についても更なる情報が求められる状況であった。また今のところ皆無である埋葬施設に関する基本的な情報(位置、方向、数など)も、築造時期を考える上で重要と考えられる。

以上を踏まえ、①墳丘段築構造および埴輪樹立状況の解明、②埴輪資料の獲得による築造時期の絞り込み、③墳頂部の地中レーダー探査による埋葬施設情報の獲得、の三つを主な目的として、今回の発掘調査計画を策定した。

(2) 調査の目的と主な内容

①墳丘段築構造および埴輪樹立状況の解明

後円部の南側に調査区を計1箇所設定し、墳丘裾の陸橋部状部分の広がりや、後円部の段築構造、テラス面などにおける埴輪樹立状況を確認する。

調査面積：88 m² (最大)

掘削方法：人力掘削

②埴輪資料の獲得による築造時期の絞り込み

発掘調査で得られた埴輪の分析によって、詳細な築造時期を推定する。

③墳頂部における地中レーダー探査

後円部・前方部墳頂部において非破壊の地中レーダー探査を実施し、埋葬施設の位置や方位、構築基数などに関する情報を獲得する。探査の実施においては東海大学の北條芳隆氏の協力を得る予定である。

(3) 調査次数の呼称と調査予定時期について

第1次調査 2023年2月27日～3月19日 (実施済)

第2次調査 2024年2月29日～3月20日 (予定)

第3次調査 2025年2月～3月 (予定)

(4) 調査担当者と調査体制

担当者：大阪大学教員(福永伸哉・高橋照彦・上田直弥) 補助員：大阪大学学生

調査協力：三木市教育委員会、三木市史編さん委員会

3 2024年度以降の調査計画

2024年度以降の調査では、前方部端を含めた墳丘規模や前方部の段築構造、前方部端付近の平面プランなどを明らかにする目的で発掘調査を予定している。具体的なトレンチ配置予定および最大の掘削範囲に関しては図2に記載のとおり。ただしあくまで現状の計画であり、今年度以降の発掘調査の状況によっては変更を行う可能性がある。

出土遺物の整理や報告書作成作業に関しては、発掘後から随時行うこととする。出土品整理作業の体制も、発掘調査と同じく、担当者：大阪大学教員、整理員：大阪大学学生という形を採る。報告書の刊行計画については、発掘調査終了後3年以内の刊行を目指す。

また、調査で出土した文化財については2023年2月1日付けで締結した覚書（『愛宕山古墳（下石野5号墳）の調査研究に関する覚書』）の通り、大阪大学考古学研究室による整理分析作業を実施し、報告書作成の後、基本的には三木市教育委員会が社会的活用をはかる。



図1 愛宕山古墳の位置および周辺の地図

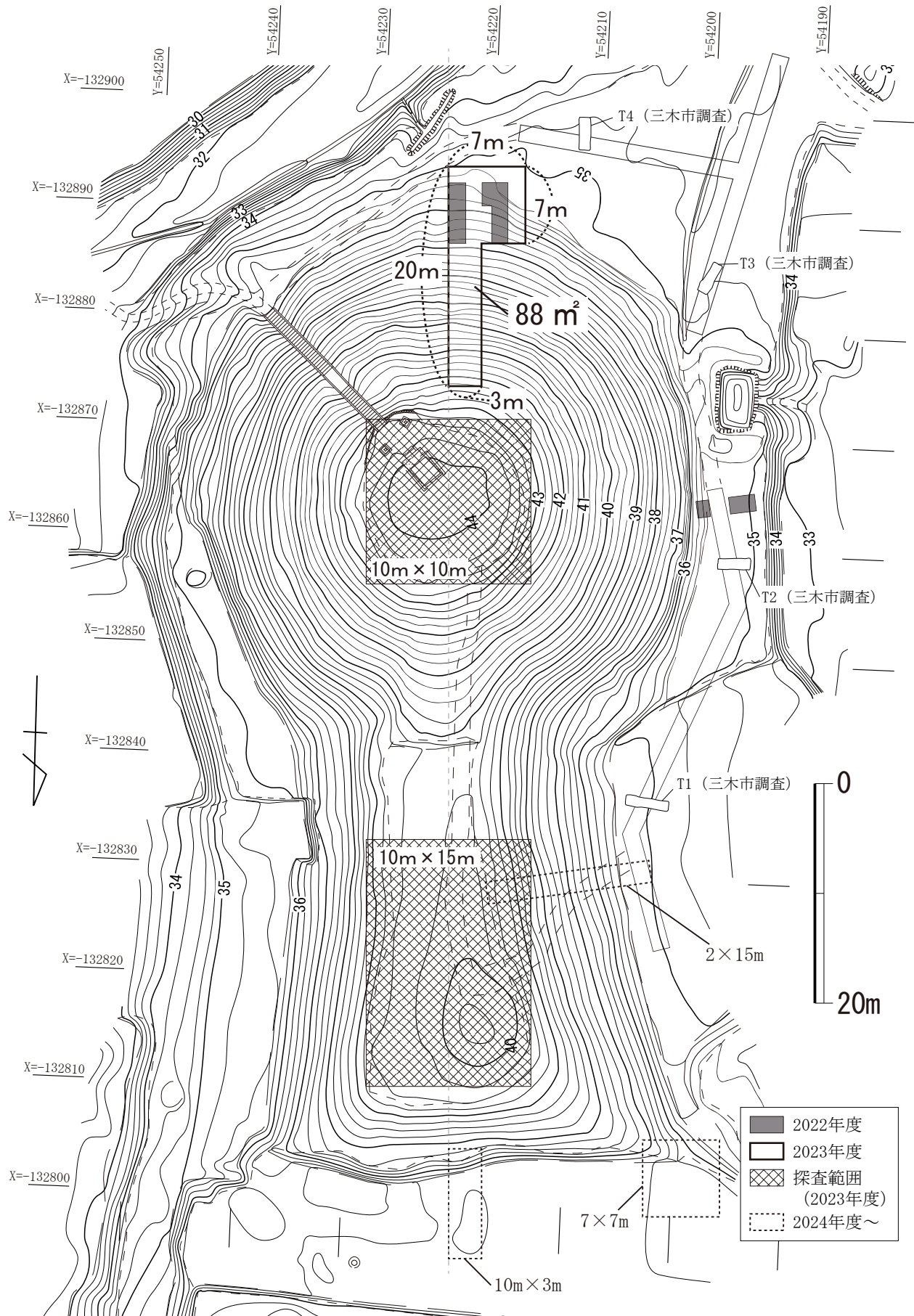


図2 三木市愛宕山古墳 調査区配置図

「六社神社屋台 旧水引幕・高欄掛け・布団締め」の調査報告
と今後の方針について

- 1 文化財の名称
六社神社屋台 旧水引幕・高欄掛け・布団締め
- 2 調査報告
別紙のとおり

令和5年10月27日

報告者
三木市文化財保護審議会委員
山田貴生

六社神社屋台旧・布団締め、水引幕、高欄掛けの 文化財的価値について

1 六社神社屋台旧・布団締め、水引幕、高欄掛け概要

製作年：慶応三年(1868)

→水引高欄掛け収納箱の墨書より推定。

作者：岩田虎市 神埼郡千原

→西脇市嶋旧屋台の水引高欄掛け収納箱の墨書に、作者銘が記載されている。

その中の作品と、六社神社屋台の旧高欄掛の縫い方が一致する。



六社神社先代水引幕・先々代高欄掛けの箱の墨書

2020.10.10

<水引幕>「龍縫い」

追われる龍が振り返り、追いかける龍と向き合う追い龍と向かい龍の掛け合わせと言えるデザイン。鱗の弦部に肉盛りをいれる、近年の播州屋台、淡路だんじり、四国の太鼓台などでは見られない技法が用いられている。

高欄掛け、昼提灯を新調した絹常が、明治期から大正期にかけて水引を修復をしたものと思われ、糸の色がことなる部分が見られる。

後述する同じ岩田虎市作の屋台水引幕と比べても、六社神社のものは、龍二頭だけの刺繍であるために、立体性を伴ったものである。



<高欄掛け>「賤ヶ岳の戦い」

現在の高欄掛けや絹常の高欄掛けより、全体部分に対する刺繍部分の割合、人間の体全体に対する頭部部分の割合は小さく作られている。馬の脚は直立しているなど現在のもののほど、躍動的なものとはいえない。その一方で、細い糸が用いられ、より繊細な表現となっている。



六社神社屋台先々代高欄掛け



六社神社屋台先代高欄掛け 明治三十六年

＜布団締め＞「竹に虎」

虎が岩田虎市によるものかは不明。しかし、①後世の補修を手がけた絹常の近い時代の虎とも糸や縫い方が異なる。②後述の浅上若幟と同様に虎柄の黒い縞模様が金に黒を着色する技法が用いられている。以上2点から、岩田虎市による可能性が高いと思われるが、今のところ断言はできない。

下地の紺色の布は、高欄掛けと同じもので、当時より使われていったと思われる。現在

の屋根側面のみにとりつける布団締めと違い、屋根の上部から反対側まで渡して、布団を締める形態となっている。



六社神社屋台先代布団締め



六社神社屋台先代布団締めの虎



宿原屋台水引幕の虎

2 岩田虎市の他の作品

屋台・太鼓台以外の作品

＜丹波篠山市＞

波々伯部神社 上宿山 幕、見送り幕





<淡路市>

八幡神社 浅若上幟



<紀ノ川市>

北之町だんじり 幕、傘幕



本町だんじり 幕

屋台・太鼓台の作品

＜淡路市＞ 岩屋神社 松帆布団だんじり水引幕、提灯

＜洲本市＞ 河上神社 里布団だんじり提灯

＜神戸市＞ 西区 伊川谷惣社 吹上屋台 水引幕、高欄掛け（文久元年）
高砂より伝来と伝わる。

＜西脇市＞ 嶋先代屋台水引幕 高欄掛け（明治十年）





<小野市> 池田・祇園神社屋台 水引幕、高欄掛け(明治二十七年)



脇本・大歳神社屋台 水引幕、高欄掛け(江戸時代か)

<三木市> 石野・御酒神社 高欄掛け、布団締め (明治二十九年)

垂穂・御酒神社 水引幕、高欄掛け、布団締め（明治二十九年）

岩田虎市は、丹波篠山、播州、淡路、そして紀ノ川市など広範囲の山車、屋台などの作品を手がけた。丹波篠山、紀ノ川市のものは祇園祭の山鉾など山車に見られる、平面的で静的なものが多い。龍がより立体的なものになるのが、池田、垂穂、吹上のものだが、いずれも素戔鳴尊八俣大蛇退治のもので、龍頭が8つあり、明治時代の絹常の刺繍や六社神社屋台の刺繍と比べると平面的なつくりになっている。

3 その他の古い屋台刺繍

丹波市井原太鼓・・・水引幕、高欄掛けを擁する

丹波市谷川太鼓・・・水引幕を擁する。保存状態はよくない

など、丹波市などにいくつか残る。だが、いずれも水引幕、高欄掛け、布団締めが揃っているものは見当たらなかった。

4 六社神社屋台旧・布団締め、水引幕、高欄掛けの文化財的価値

現在、六社神社屋台の文化財的な価値としては、以下の価値があることがわかった。

- ・江戸時代の布団締め、水引幕、高欄掛けが揃う希有な例（民俗文化財的価値）
- ・江戸時代の屋台が、移動無く現地で保存されている希有な例（民俗文化財的価値）
- ・播州屋台刺繍において、現在とは異なる刺繍方法が用いられていたという歴史的資料として（美術史的価値、民俗文化財的価値）
- ・江戸時代の平面的・静的な山車刺繍から立体的・動的な屋台刺繍への変化を知る資料としての価値（美術史的価値、民俗文化財的価値）
- ・高欄掛けは当時のものがほぼそのまま残っている状態であり、水引幕も主な修復は絹常によるものと思われ、岩田虎市作品の中でも当時のものが比較的よく残っているものであるといえる。
- ・紀ノ川市のもの、丹波篠山市のもの、吹上屋台は現役のもので、近年改修されたもの、近年改修される予定の者が多く、より当時のものの姿をとどめているものの希少性はより高まる見込みである

当該作品は、美術史的な価値、民俗文化財的な価値が高いものであり、三木市指定文化財にふさわしいものといえる。